

Book Review



歯周基本治療で治る！ 歯周基本治療で治す！

牧野 明 著



Reviewer

丸森英史 Hidefumi Marumori
(横浜市・丸森歯科医院)

A4 判変
定価 (本体 8,200 円+税)
医歯薬出版刊



あとがきに書かれた「歯周基本治療の威力」が随所に読み取れる書籍である。それに必要な診断やルートプレーニングの手技等が丁寧に紹介されている。

患者さんの経過を通して「歯周基本治療の威力」を実感したのがこの書籍をまとめる動機になったそうである。その「威力」は著者の驚きや気づきに基づいた発見があって感じられるのである。威力とは組織が治癒に向かう流れや変化で、具体的には歯周組織の変化や、それに伴う歯牙の移動である。その流れを上手に導き、歯周環境を整えるのが「歯周基本治療」の骨子であろうことが、本書のなかから読み取れる。そのために多様な病変を整える治療の工夫が必要である。その工夫の組み立てが、著者のオリジナルな部分である。

丁寧な治療をされている。一読しての感想である。病変が治癒していく流れに沿うように、治療が進められていく。一つひとつに治癒までの物語があるようである。一律に治療を進めるの

ではなく、病変の多様性に合わせて治療計画が組み立てられていく。その見立てはお見事である。画家がキャンバスに一つひとつ違う絵を描いてゆくようである。

早く治療を終えたいのは患者さんの本音であろうが、質を求めてくると時間がかかってもしっかり治したいと患者さんの気持ちに変化が生じてくる。時間がかかって、患者さんが治療に参加しているという意識があれば、その葛藤は乗り越えられる。本書に添えられた写真は、おそらく患者さんに見てもらふことによりメンテナンスへの動機付けにされたのだろう。体験を通じた学習である。言葉による理屈だけの説得ではなく、治療による変化での納得が、いわゆる動機付けになるのである。そこに歯科医院の総合力が求められることになる。

安定した長期経過を得るためには、その道のりは外せない。著者が本書のなかでたびたび触れている医院の総合力はその表れである。初診時に説明義務として言葉を尽くしても、患者とし

ての治療体験からその言葉の意味を再確認して、納得してゆくのである。

そのなかで患者さんも着実に変わっていく。自身の口腔内に確かな手応えを感じつつ治療に参加している様子が想像できる。治療に参加している意識があればこそその後のメンテナンスへの気持ちも育っていくのである。

治療の戦略は単に歯周ポケットを計測することや、骨吸収を分類するだけでは見えてこない。歯肉を観察し、X線写真を観察するなかからアイデアがわいてくる。

本書のなかの適切な口腔写真や鮮明なX線写真はその熟慮の深さを物語る資料である。X線写真の質と臨床の質は相関するのは多くの先人たちの教えである。歯肉を観察する力や、X線写真を読影する力は、そのまま診断力や治療方針を組み立てる能力の表れである。

ぜひ、若い先生方に本書から多くを読み取っていただきたい。さらに歯科衛生士さんも含めた歯科医院での勉強会にも役立てられる一冊である。